

平成22年度 病害虫発生予察情報

発生予報第7号（8月下旬～9月中旬）

平成22年8月24日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並		
		白葉枯病	やや少ない		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	多い		
		トビイロウンカ	やや多い		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並		
		果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並～やや多い
				ナシ	黒斑病
			カキ	シンクイムシ類	平年並
				ハダニ類	やや少ない
カメムシ類	多い				
うどんこ病	少ない				
	カキ	カキミガ	平年並		
		カメムシ類	多い		

中国地方1か月予報（8月21日～9月20日・広島地方気象台8月20日発表）

< 予想される向こう1か月の天候 >

平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の気温は、高い確率50%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >

気温	10%	30%	60%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%

低い（少ない）
 平年並
 高い（多い）

A. 普通作物果樹

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

初発時期は7月30日で平年に比べてやや早い。

全般の発生量は平年並みである。

向こう1か月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

全般の発生量は平年に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 やや少ない

予報の根拠

全般の発生量はほぼ平年並みである。
向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

8月中旬の巡回調査では、寄生虫数12.2頭/50株(平年42.6頭)、発生圃場率60.5%(平年73.3%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

8月中旬の巡回調査では、寄生虫数66.6頭/50株(平年7.8頭)、発生圃場率94.7%(平年55.3%)で発生量は平年に比べて多い。
予察灯への飛来量は平年に比べてやや多い。
向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

8月中旬の巡回調査では、寄生虫数4.0頭/50株(平年2.5頭)は平年並みであるが、発生圃場率52.2%(平年21.1%)は平年に比べてやや高い。また、短翅率も高い。
予察灯への飛来量は平年並みである。
向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(7) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

8月中旬の巡回調査では、寄生虫数0.1頭/50株(平年0.2頭)、被害株率0.5%(平年2.3%)で発生量は平年並みである。
予察灯への飛来量は平年に比べて少ない。
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

圃場でのすくい取り調査では捕獲頭数2.1頭/20回振り(平年7.2頭)、発生圃場率56.5%(平年74.7%)と平年に比べてやや少ない。
予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数はやや少ない。
向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 全域
発生量 平年並~やや多い

予報の根拠

フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は出雲市で平成比55.7%、益田市で18.1%とやや少ない。
現在の巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変か所数は0.55か所（平成0.62か所）でほぼ平成並みである。
向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方

ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量

少ない

予報の根拠

8月20日の巡回調査では、発病葉率は9.1%（平成20.2%）であり、平成と比べて少ない。

向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方

ナシ栽培地帯

発生時期

平成並

発生量

平成並

予報の根拠

予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数とも平成並みである。

向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方

ナシ栽培地帯

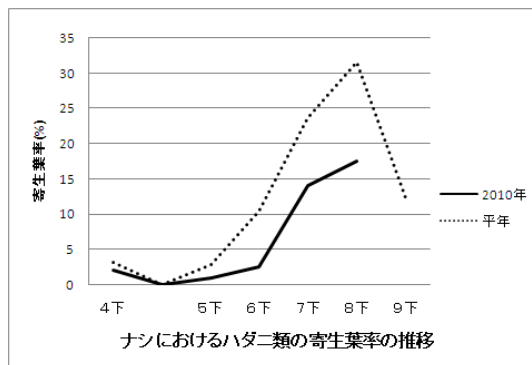
発生量

やや少ない

予報の根拠

巡回調査では、寄生葉率は17.5% / 50葉（平成31.6% / 50葉）でやや少ない。

向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方

ナシ栽培地帯

発生量

多い

予報の根拠

果樹カメムシ類注意報発令中（7月7日付）

予察圃場（出雲市）の8月1から5半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は3,267頭（平成781.4頭）と多い。

チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1から5半旬までの誘殺数は3,680頭（平成821.6頭）と多い。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方

カキ栽培地帯

発生量

少ない

予報の根拠

8月19日の巡回調査では、発病葉率は0.4%（平成12.0%）であり、平成と比べて少ない。

向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方

カキ栽培地帯

発生量

平成並

予報の根拠

第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。
向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 多い

予報の根拠

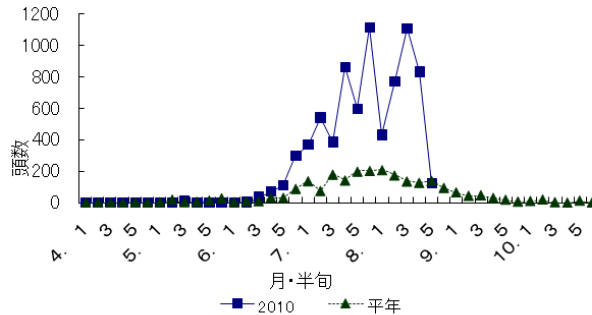
果樹カメムシ類注意報発令中(7月7日付)

予察圃場(出雲市)の8月1日から5半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は3,267頭(平年781.4頭)と多い。

チャパネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1日から5半旬までの誘殺数は3,680頭(平年821.6頭)と多い。

7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率は17.5%(平年5.6%)と多い。

8月の気象はカメムシ類の発生を抑制する要因とはならない。



第1図 予察灯における果樹カメムシ類誘殺数

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/shimane/>